

各 位

会 社 名 株式会社ダルトン
代表者名 代表取締役社長 矢澤 英人
(JASDAQ・コード7432)
問合せ先 代表取締役副社長 東郷 武
電話：03-3549-6800

企業理念および中期経営計画に関するお知らせ

当社は、新しい企業理念および中期経営計画を決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 企業理念および中期経営計画策定の背景

当社は、平成 22 年 4 月の株式会社イトーキとの資本・業務提携、その後の提携強化を第二の創業と位置づけ、平成 31 年に迎える創業 80 周年に向けた経営構想を掲げ、様々な改革に取り組んでおります。今般、これを更に発展させるため、新しい企業理念と共に中期経営計画を策定し、企業姿勢と経営目標を示すことと致しました。

2. 新しい企業理念

■ グループスローガン

創造の、共創へ。

■ グループ理念

私たちダルトングループは、ラボ環境の構築からモノづくりの現場まで、あらゆる価値創造活動を支えるパートナーとして、お客様とともに人と社会と環境に広く深く貢献します。

【グループメッセージ】

多岐にわたる分野で、創造という挑戦を続けるお客様と、歩みを重ねて —

研究関連事業、粉体・液体関連事業を両輪とするダルトングループの力は、創造活動に情熱を抱くお客様のパートナーとしての役割を担うことで、はじめて発揮されます。

際立つ個性を携えたグループ各社と共に、歴史と信頼を築いてきたサプライヤーと共に、そして、価値創造の主人公であるお客様と共に。 — 創造の、共創へ。 —

私たちダルトングループは、おのこの知と技術を結集し、お客様のあらゆる創造活動と融合することで、革新的な価値を共に創造し、豊かな社会と輝ける未来に貢献します。

3. 2015 中期経営計画

平成 31 年度の創業 80 周年に向けて、平成 25 年度から始まる 3 ヶ年を前期と捉えて、平成 27 年度を目標年度とした中期経営計画を策定しました。

(当社ホームページ資料もご参照下さい http://www.dalton.co.jp/ir/03_library.html)

【メインテーマ】

インフラ整備による成長基盤、収益基盤の再構築

～ 環境変化に強い事業ポートフォリオの構築とグループ経営コストの削減 ～

【具体的テーマ】

- 1) 主力事業の強化
 - ① コアである研究施設機器分野の利益率向上、安定成長
 - ② サブ事業である粉体機械分野の売上高拡大、育成強化
- 2) 周辺分野の育成
 - ① 施設機器メンテナンス分野の育成
 - ② アイソレータ分野の育成
 - ③ 液処理分野の育成
 - ④ 粉体受託加工分野の育成
- 3) 新規分野の開拓
 - ① 半導体関連製造装置等の市場開拓、新製品開発
 - ② 製造子会社によるグループ外OEMへの取り組み
- 4) ブランディングおよびプロモーション強化
各社の個性を活かしつつ、グループとして一体感、躍動感ある事業展開を強化

【連結数値目標】

(単位：百万円)

		売上高	セグメント利益	本社調整費	営業利益
2015年度目標	科学研究施設	15,000	750(5.0%)	—	—
	粉体機械等	6,600	620(9.4%)	—	—
	全社合計	21,600	1,370(6.3%)	△500(2.3%)	870(4.0%)
【ご参考】 2012年度までの 直近5年平均	科学研究施設	11,047	277(2.5%)	—	—
	粉体機械等	5,339	504(9.4%)	—	—
	全社合計	16,386	781(4.8%)	△445(2.7%)	336(2.0%)
【ご参考】 2013年度目標	全社合計	18,288	—	—	601(3.2%)

(注) 本社調整費：総務経理部門等の管理部門に係る費用及び全社的役員に関する人件費などの全社的費用

4. 創業80周年経営構想（平成31年）【ご参考】

【業績目標】

連結売上高：300億円（科学研究施設セグメント：200億円、粉体機械等セグメント：100億円）

営業利益額：20億円、営業利益率：6.7%

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上